

■ 第1回企業×学生交流会

日時	令和5年12月10日(日) 13:00~16:00
会場	岸和田波切ホール 1階多目的ホール
テーマ	食
担当	総合司会：藤井優希(4期生、和歌山大学卒業) メインファシリテーター：中村美月(6期生、武庫川女子大学) グループファシリテーター：藤井優希(和歌山大学、4期)、藤井千聖(和歌山大学、6期)、古賀彩乃(関西大学、受講生)、永濱侑佳(関西大学、受講生)、長島亘輝(摂南大学、5期、オンライン)
交流会趣旨説明	中村美月(6期生、武庫川女子大学)
リーダー会活動紹介	① 武庫川女子大学学園祭「巨大ジェンガ〜そのときあなたは どうする?」について：中村美月(6期生、武庫川女子大学) ② 日本消費者教育学会中部支部での発表「学校教育で使うワークブック『毎日の行動を見直そう!』」藤井千聖(和歌山大学、6期)
消費者を大事にする企業活動紹介	食品ロスを減少させるための「食」に関する取り組み 大阪いずみ市民生活協同組合 竹村 久氏
ワークショップ「人や社会や地球にやさしい消費行動を考える」	○「手前どり」を徹底してもらうためにどうする? (導入)手前どりを知ってますか?知っている人は実行してますか? (メインテーマ) どうしたら手前どりを消費者に行ってもらえることができるか?その方法を考える
ちらし次第	 

Web 対応	和歌山大学の受講生については、事前の講義の関係から会場に来るのが間に合わない学生が出てくることから、対面での実施であるが、オンライン対応についても準備した。 羽衣国際大学の内田先生のご協力を得て、交流会の全体の流れの動画配信、ワークショップになった時に参加可能な Zoom 対応等について担当いただいた。会場に Wi-Fi がないことから、レンタルで対応することとした。
--------	--

<参加者数>

種類	参加者数	備考
学生	26 人	大阪府講座受講生 2 和歌山大学講座受講生 24
リーダー会	4 人	4 期生 1、5 期生 1、6 期生 2
企業	11 人	大阪いずみ市民生協、伊藤ハム米久ホールディングス株式会社、サラヤ株式会社、株式会社サンコウ、イカリ消毒株式会社、株式会社トリドールホールディングス NACS：研究会 2、西日本支部長事業委員会委員長 日本ヒーブ協議会：株式会社コンシェルジュ
大学	1 人	和歌山大学 1
その他	2 人	大阪府消費生活センター1、事務局 1
合計	44 人	グループ分け 5 班

<第 1 回交流会の様子>

① 事前準備

1 時間前

- ・会場机、Wi-Fi、カメラ等のセッティング
- ・担当者事前ミーティング開始
- ・グループファシリテーターの役割を確認
- ・各自役割の確認

① 開会式

司会 藤井優希

まず初めに、司会者から 10 分遅れての開始となったことのお詫びがあり、開会を宣言した。

② 交流会の趣旨説明

発表者：中村美月

主催者であるリーダー会を代表して、交流会の趣旨説明を行った。

③ 岡崎先生よりご挨拶

コロナ後久しぶりに対面での開催となったこと、企業の方にもご協力をいただきながら交流会を開催できたことへの感謝が伝えられた。

④ リーダー会活動のご紹介

a. 武庫川女子大学学園祭「巨大ジェンガ〜そのときあなたは どうする？」について

発表者：中村美月

10月14日に武庫川女子大学学園祭で、屋外テントでの巨大ジェンガ「そのときあなたは どうする？」の出店を行ったことの紹介があった。巨大ジェンガで引いた番号で選択のジレンマ問題に回答し、タイプシールを貼って参加者の消費行動を掲示した。多くの参加者があったとの報告があった。

b. 日本消費者教育学会中部支部での発表「学校教育で使うワークブック『毎日の行動を見直そう！』」について

発表者：藤井千聖

6月3日に日本消費者教育学会中部支部で発表を行ったことについて紹介があった。学生が学会で発表する機会のごくまれであるが、リーダー会活動及び現在進めている学校教育の中での啓発教材の開発について、先進事例であることから学会発表をすることができた。学会発表では、リーダー会の紹介、選択のジレンマ問題を考えるためのワークブック「毎日の行動を見直そう！」を作っていく過程について紹介し、今後の学校教育の中での啓発教材の利活用の拡充について展望を紹介したとの報告があった。

⑤ 基調講演

基調講演として、大阪いずみ市民生協の武村久様から「食品ロスを減少させるための「食」に関する取り組み」について40分の講演をいただいた。生協で行われている食品ロスの様々な取組について紹介があった。SDGsの取組への対応や食品ロスの現状について紹介があった後、食品ロスを減少させるための取組について、食品リサイクル循環のながれとして、店舗から出た食品ゴミ→リサイクル工場→開封作業→脱水→たい肥化→たい肥出荷→たい肥利用→収穫の流れが紹介された。

⑥ ワークショップ

ファシリテーター：中村美月

ワークショップのグループ分けについて、企業は各グループに1～2名、学生は和歌山大学以外の学生は別々のグループ、和歌山大学の学生はできるだけ学部学科を分かれて座るよう指示があった。2名オンラインでの参加があった。

続いてファシリテーターから、ワークショップのテーマについての説明があった。

テーマは、「「手前どり」を徹底してもらうためにどうする？」。

続いて、テーマについて趣旨説明を行った。

今回、グループワークのテーマは、導入とメインテーマの2つを設定した。導入の「手前どりを知っていますか？」では、スーパーやコンビニ等で、手前に並んでいる食品を取ることを言い、期限が早いものが手前に来よう並べられている。そのため、手前どりは食品ロス減少に繋がる！との説明があった。そのことを知っている人は多いかと思うが、実際にスーパーなどで食品ロスのことを考えて手前どりを実践している人がどのくらいいるかという、あまり実行している人が多くないことが、スーパーなどで課題となっている。わかっているのに実行できないのはなぜか？この点についても最初に議論してもらう。

その後に、メインテーマ「手前どり」を徹底してもらうためにどうする？」に移り、企業・学生と一緒に手前どりを広めていく方法について話し合っていた。

ここからグループワークに入るが、グループワークの注意点を確認した。

この後、全員が5グループに分かれて議論した。（1グループはオンライン参加あり）

この後、全員が5グループに分かれて50分議論した。

最後に全体共有の時間では、5グループが話し合われた内容について、順次発表を行った。

⑦ 閉会&アンケート

交流会の閉会宣言をした後、参加者に Web 上にあるアンケートに回答して頂くようお願いして終了した。



